

## 平成 24 年度 社会教育事業の実績

## I いのちの教育の基礎となる家庭教育と幼児期の教育を支援する

## 1 家庭教育支援の充実

「家庭は教育の原点であり、すべての教育の出発点である」ということを基本に据えながら、家庭教育にかかる今日的な課題の解決を図るとともに、子どもたちが基本的な生活習慣・生活能力、思いやりや善悪の判断などを身につける上で重要な役割を担う家庭の教育力の充実を図るため、以下の施策を実施した。

## (1) 家庭教育推進事業

## ① 家庭教育推進協議会の設置

## ア 山形県家庭教育推進協議会（6月、2月の2回）

10名の委員を委嘱し、家庭教育の向上や地域における家庭教育支援を推進する事業等の方策について検討した。

## イ 県家庭教育アドバイザーの委嘱

24名の県家庭教育アドバイザーを委嘱し、教育事務所毎に実施する講座等の講師として活動していただいた。

## ② 家庭教育電話相談「ふれあいほっとライン」の開設

家庭教育や子育てに不安や悩みを持つ親等からの相談に応じるため、電話等による相談を実施した。相談件数：156件（12月現在）

## ③ やまがた子育て講座（国補助事業）

家庭教育に関する学習機会等の充実を図るために市町村と連携し、主に小学生を持つ親に対する家庭教育に係る学習機会を提供した。

（27市町村182箇所で開催予定）

## ④ 家庭教育出前講座（国補助事業）

多忙のため家庭教育の学習機会に参加できない親等に対応するため、事業所等に向いて家庭教育や子育てに対する理解と認識を深めるための講座を行った。

（県内18箇所で開催：12月現在）

## ⑤ 家庭教育支援フォーラム（国補助事業）

家庭教育支援者の研修及び情報交換等を行い、身近な地域における家庭教育支援体制の充実を図った。

（県内4箇所で開催）

(2) 家庭教育支援者活用事業（重点分野雇用創出事業）

地域におけるきめ細やかな家庭教育支援を行うために、家庭教育支援者による支援チームを組織し、不安や悩みを抱える家庭や学校等での相談、情報提供等を行った。

（委託団体：NPO法人やまがた育児サークルランド）

ともい  
2 幼児共育の推進

人格形成の基礎を培う上で極めて重要な時期である幼児期の子どもを「家庭」「幼稚園・保育所等」「地域」が連携して育む『幼児共育』を提唱し、行動指針となる「山形県幼児共育アクションプログラム」に基づき、実践的な活動を推進するために、以下の施策を実施した。

(1) 幼児共育推進事業

① 幼児共育普及推進会議の設置

ア 各地区幼児共育普及推進会議の開催（各地区年2回）

各地区における幼児共育の普及推進に向けた方策について検討した。

イ 県幼児共育アドバイザーの委嘱

8名の県幼児共育アドバイザーを委嘱し、教育事務所毎に実施する講座等の講師として活動していただいた。

ウ 幼児共育の普及・啓発

幼児共育実践事例集と幼児共育ポスターを県内幼稚園・保育所等に配付した。

② 幼児共育ふれあい広場（国補助事業）

三者の連携による親子のふれあいを大切にした様々な体験活動等を実施した。  
（18市町村64箇所で開催予定）

③ 幼児共育推進プロジェクト（国補助事業）

ア 幼児共育フォーラム（県内4箇所）

幼児共育の実践事例等に基づく、指導者向けの研修会を実施した。

イ 幼児共育ふれあい広場「公開講座」（県内4地区）

開発した活動プログラムによる実践活動の普及を図った。

II かかわりの中で子ども・大人の社会力を高める

1 青少年の体験活動の充実と地域とのかかわりの創出

(1) 放課後子どもプラン推進事業

放課後や学校外における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりと、地域の教育力の再生を図る趣旨で、文部科学省「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省「放課後児童健全育成事業」を連携し「放課後子どもプラン」として推進を図った。

- ① 県推進委員会の設置（5月18日、2月21日開催予定の年2回実施）  
 ○13名の委員を委嘱し、県子育て推進部子育て支援課との連携を図りながら、県の推進方策や県事業の実実施計画及びその評価、次年度事業の方向性等について協議。
- ② コーディネーター研修会の実施  
 6月28日、於：生涯学習センター、参加者：49名  
 ○パネルディスカッション「地域全体で子どもを育む仕組みづくり」  
 パネリスト 各事業のコーディネーター、家庭教育実践者、学校教育関係者 4名  
 （遊佐町石垣氏、大江町上田氏、南陽市錦氏、戸沢村早坂氏）  
 コーディネーター  
 山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科 准教授 安藤 耕己 氏  
 ○グループ研修（3テーマ：プログラム企画立案、安全管理、関係機関との連携）  
 ○総括  
 山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科 准教授 安藤 耕己 氏

③ 指導者研修会の実施（1月現在）

		村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区
第1回	期日	5月31日（木）	6月14日（木）	6月1日（金）	6月19日（火）
	参加者	238名	37名	158名	159名
	場所	寒河江市 中央公民館	新庄市 セミナーハウス	米沢市 すこやかセンター	三川町公民館
	内容	・事業説明 ・講演 「特別な支援を必要としている子に寄り添うには」 FR教育臨床研究所 花輪敏男氏	・実技と講義 「みんなが楽しめるゲーム・運動遊び」 仙台大学 小池和幸氏	・講演 「安心安全を大切に にした放課後児童 クラブ・子ども教 室の経営と指導」 REGISTA(有) 谷塚哲氏	・講演 「モンスターペ アレント論を超 えて」 大阪大学大学院 小野田正利氏
第2回	期日	9月12日（水）	6月27日（水）	9月6日（木）	7月10日（火）
	参加者	156名	73名	41名	114名
	場所	寒河江市 中央公民館	新庄市 最上総合支庁	南陽市 沖郷公民館	三川町公民館
	内容	・実技と講義 テーマ：遊び、作 る、生きる、食べ る、かかわる ポポーの広場 石井勝氏他4名	・実技と講義 「学校・地域連 携と子どもの遊 び」 日本大学 佐藤晴雄氏	・講義 だがしや楽校① 「自分店を開いて みよう」 東北芸術工科大学 松田道雄氏	・事例発表 鶴岡市第一学区 学童保育所 酒田市啄成学区 学童保育所 ・情報交換会
第3回	期日	2月4日（月）	11月30日（金）	10月2日（火）	10月16日（火）
	参加者	※予定	38名	126名	43名
	場所	山形市 ビッグウィング	新庄市 最上総合支庁	米沢市 置賜総合支庁	三川町公民館

回	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 「放課後児童クラブにおける安全と地域との連携」 日本子どもの安全教育総合研究所 宮田美恵子氏</li> <li>・事例提供 河北町</li> <li>・グループ討議 助言者山形大学 安藤耕己氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「ケースワーク・グループワーク」的手法 児童健全育成指導士 田中純一氏</li> <li>・グループ演習 課題を抱えた子どもの理解と対処法」 助言者5名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 「ADHD、LD アスペルガー症候群の子どもへの具体的な指導と対応のあり方」 山形大学 三浦光哉氏</li> <li>・グループワーク (参加者事前アンケートの質問項目により)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験実習 子どもたちが夢中で遊べる「イチオシのネタ」 5ブース</li> <li>リサイクル工作、手品 等</li> </ul>
---	----	--	--	--	--

第4回	期日		3月7日(木)	12月6日(木)	11月29日(木)
	参加者		※予定	31名	115名
	場所		新庄市 最上総合支庁	南陽市 沖郷公民館	三川町公民館
	内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表</li> <li>・情報交換会</li> <li>・対象 行政担当者等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技 だがしや楽校② 「自分店開店」</li> <li>・参加者ブース 東北芸術工科大学 松田道雄氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 「気になる子への対応の仕方」 余目第三小教頭 早川隆氏</li> </ul>

#### ④ 市町村補助事業の実施

ア 運営委員会及びコーディネーターの設置

イ 「放課後子ども教室」の実施＝ 32市町村 123箇所

ウ 「放課後児童クラブ」の実施＝ 32市町村 247箇所

#### (2) 学校支援地域本部事業

地域住民の積極的な学校支援ボランティア活動を通じて学校と地域の連携体制の構築を図り、学校の教育活動を充実させるとともに、教員が子どもと向き合う時間の拡充を図るために、本部の設置を推進した。

##### ① 運営協議会の開催 (6/13、2/8の年2回の実施)

○11名の委員を委嘱し、県内小中学校の学校支援ボランティアの活動状況を把握し、今後の事業の進め方等を協議した。

##### ② 地域コーディネーター研修会の開催

6月28日、於：生涯学習センター、参加者：44名

○講義「学校と地域の相互理解のポイント」

○グループ演習「学校支援ボランティアのコーディネーション」

講師 学習院大学教授 長沼 豊 氏

##### ③ 市町村補助事業の実施

○21市町村64本部の実施

山辺町、寒河江市、河北町、西川町、大江町、東根市、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、南陽市、高畠町、川西町、長井市、小国町、白鷹町、庄内町

(3) ふるさと塾推進事業

ふるさと山形のよき生活文化や知恵、伝統芸能などを教え合い、学び合う「ふるさと塾」の活動が地域を中心に県内各地で行われることを通じて、郷土愛の醸成、地域コミュニティの活性化、地域資源の確実な保存と伝承を図ることによる、子どもの社会力育成を目指して、以下の施策を実施した。

①指導者研修会の実施

村山地区	—	—	—
最上地区	2月6日(水)	最上総合支庁(新庄市)	※予定
置賜地区	12月8日(土)	沖郷公民館(南陽市)	参加者 約25名
庄内地区	9月30日(日)	庄内町余目第三公民館(庄内町)	参加者 約25名

②顕彰事業「ふるさと塾活動賞」

受賞団体 14団体

(文化分野 12団体)

- ・尾花沢まつりばやし保存会(尾花沢市)
- ・お香を楽しむ会(中山町)
- ・合海田植踊り保存会(大蔵村)
- ・長井小町の会(長井市)
- ・赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会(南陽市)
- ・小国町立沖庭小学校(小国町)
- ・鮎貝語り部クラブ(白鷹町)
- ・黒森少年歌舞伎・黒森少年太鼓(酒田市)
- ・箏・三絃 秋麗会(酒田市)
- ・酒田市立広野小学校(出羽人形芝居クラブ)(酒田市)
- ・丸岡桐箱踊り等保存会(鶴岡市)
- ・キッズ☆わだいこ(庄内町)

(自然分野 2団体)

- ・長沢子ども遊々塾(舟形町)
- ・神田妙見塾(戸沢村)

(10/14 開催のふるさと塾フェスティバルの開会行事で表彰)

③ふるさと塾フェスティバルの開催(委託事業)

ア 日 時 10月14日(日) 10:00~15:45

イ 場 所 尾花沢市文化体育施設「サルナート」

ウ 委託先 ふるさと塾フェスティバル実行委員会

エ 内 容 10:00~12:00

遊び体験、発表団体のパネル展示、体験交流会

13:00~15:45 7団体のステージ発表

「ふるさと塾フェスティバルテーマソング」の披露、「ふるさと塾こども宣言」、参加者全員での花笠踊り 約500名参加

④市町村総合交付金による市町村への活動支援

基本枠…対象35市町村中、32市町村で実施(山形市、天童市及び大石田町を除く)

追加枠…合併市で実施(鶴岡市、酒田市)

⑤記録保存システム(ふるさと塾アーカイブス)の運用

ふるさと塾活動映像167コンテンツ・視聴覚教材53コンテンツを公開中。「ふるさと塾こどもフェスティバル2012」の内容を掲載予定。

⑥事業の目標 ふるさと塾賛同団体数

3月末日現在 280団体

(4) 「いのちの教育」推進事業

第5次山形県教育振興計画の柱として位置づける「いのちの教育」について、広く県民に周知・啓発を図るとともに、「いのちの教育」の実践を通して、子どもたちとかわる「いのちの教育」サポーター(以下「サポーター」という。)を育成し、学校、家庭、地域等が協働して「いのちの教育」の推進を図ることを目的として、以下の事業を実施した。

① 「いのちの教育」協働推進事業

各自然の家、各教育事務所社会教育課を事業主体とし、それぞれ体験活動、読書活動に関わるサポーター養成研修会・スキルアップ研修会等を実施した。

ア 「いのちの教育」サポーター養成研修会

朝日少年自然の家 4/21~22(19名) 7/14(27名)

金峰少年自然の家 11/10~11(14名)

飯豊少年自然の家 5/5(9名) 7/22(16名)

神室少年自然の家 4/19・5/9・6/13・7/11(4回シリーズ 計94名)

イ スキルアップ研修会

村山教育事務所 9/25(47名) 9/27(60名)

最上教育事務所 6/25(31名) 11/3(108名)

置賜教育事務所 7/1(80名)

庄内教育事務所 9/6(66名) 9/27(66名) 10/11(52名)

(5) 地域青少年ボランティア活動推進事業

「山形方式」と呼ばれる地域青少年ボランティア活動の推進のため、中央センター及び4地区センターを設置し、情報の収集・提供やネットワークの構築を行うとともに、支援体制の整備および研修・交流機会の拡充を図り、以下の事業を実施した。

① 中央センター事業（県青年の家）

ア 山形県地域青少年ボランティア推進会議の設置

県内地域青少年ボランティア活動等の活動推進のための方策を検討し、各センターの事業計画の検討及び実施後の検証・評価等を行った。

イ YYボランティアビューローの設置

県内の青少年ボランティア活動に関する各種情報を収集し、インターネット等を通じて広く提供するとともに、活動実践者やサークルへの支援を行った。

また、ボランティアに興味を持つ青少年を対象に「季節ごとの体験ボランティア」の実施し、身近な地域青少年ボランティア活動の体験ができる機会を提供した。

(a) 期間 夏：7月～9月、冬：12月～1月

(b) 場所 県内全域

(c) 内容 各ボランティアサークル・団体・施設等が企画する活動への参加

(d) 対象 県内全ての小中高生及び一般の方

(e) 実績 参加者数 774名【1/8現在】

ウ YYボランティア・フェスティバル

県内各地域青少年ボランティアが一堂に会し、日常の実践活動を発表し、学習と交流を深めるとともに、合同でのボランティア実践活動を一般公開。

(a) 期日 平成24年10月13日（土）～14日（日）

(b) 場所 県青年の家

(c) 参加者 73名（小・中学生13名、高校生33名、青年・指導者等27名）

(d) 内容 [1日目] 活動発表、アイスブレイク、体験実習、交流会  
[2日目] 一般公開（来場者201名）、ふりかえり

② 地区センター事業（4教育事務所）

ア 地区地域青少年ボランティア推進会議の設置

各地域の実践、活動、事業に関する情報を交換しながら、管内の地域青少年ボランティア活動の推進に向けた諸施策等について協議した。また、活動アドバイザーを配置し、地区内のサークルやボランティア実践者への支援を行った。

イ YYボランティアセミナー

各地区中高生を対象に、2泊3日程度の日程で、主体的に計画立案し、人とのかわりの中でボランティア活動を実践する講習会を実施した。

地区	村 山	最 上	置 賜	庄 内
期日	6/16(土)～18(月)	7/26(木)～27(金)	7/8(日) 8/2(木)～3(金)	8/8(水)～10(金)
参加者	62名(高校生)	55名(中学生)	27名(中・高生)	23名(中・高生)
場所	県青年の家	県青年の家	神室少年自然の家	飯豊少年自然の家
内容	アイスブレイキング、 講義、実技講座、 企画演習、施設訪問・ 交流実習	アイスブレイキング、 講義、企画演習、 施設訪問・交流実習	アイスブレイキング、 実技講座、企画演習、 施設訪問・交流実習	アイスブレイキング、 講義、実技講座、 青年交流会への参加
				アイスブレイキング、 講義、実技講座、 企画演習、施設訪問・ 交流実習

2 青年の交流推進

(1) 青年交流事業

県内青年のネットワーク形成や社会力の向上を図るため、青年サークルの代表等45名を委員とする「青年交流会企画運営委員会」を設置し、「青年交流会」を開催するとともに、各支部活動において「学び合い地域活性化推進プロジェクト」を実践した。併せ

て、福島県内の被災児童を対象とする自然体験キャンプを実施した。

また、地域をリードする青年の育成に向け、「青年交流会企画運営委員」経験者等10名により「青年会議」を設置し、本事業の課題と方向性について検討するとともに、「青年交流会企画運営委員会」の活動に対し、指導助言を行っている。

①青年会議

ア 第1回会議 5月13日(日) 事業計画と役割の確認

イ 第2回会議 2月24日(日) 次年度の事業実施に向けた検討

②青年交流会(全県)

(a)期 日 12月8日(土)～9日(日)

(b)場 所 山形県青年の家

(c)参加者 79名

(d)内 容【1日目】各支部の活動発表、パネルディスカッション、夕食会  
【2日目】テーマ別(結婚・仕事・環境)討論

③青年交流会(地区)

地区	村 山	最 上	置 賜	庄 内
期日	8/11(土)～12(日)	8/18(土)～19(日)	10/27(土)～28(日)	10/27(土)～28(日)
参加者	11名	28名	35名	32名
場所	徳良湖少年自然研修センター	肘折センター	南陽グリーンヒル	金峰少年自然の家
内容	陶芸教室、写真撮影講座 ワークショップ (地域貢献活動について)	講義(温泉学) 活動事例発表 「ひじおりの灯」見学 ワークショップ (地域貢献活動について)	ランチ作り、活動事例発表 かぼちゃのランタン作り ワークショップ (地域との関わりについて)	講義(エネルギー事情) サントサミット (サタクロスをテーマとするボランティア活動の広域普及について)

④学び合い地域活性化推進プロジェクト

地区	村 山	最 上	置 賜	庄 内
内容	伝承料理(にぎりばつと)を用いた、大石田町青年グループ活動の支援 (料理振舞い・販売活動) ・モンテ・イオ山形公式戦 ・ふるさと塾こどもフェスティバル ・平成鍋合戦	地域で活動する青年を紹介するリーフレットの作成と配布 ・1,500部 ・8市町村各1名の青年 ・取材回数計16回	福島県内の被災者支援団体(LIFEKU)との協働による「親子遠足」の実施 ・「ぼくらの文案」実行委員会(長井市内の青年を中心)の協力を得て、13組40名の親子を招待	①赤川花火大会に招待された福島県内児童の接待 ②地域の電力事情を知るエコバスツアー(日帰り) ③庄内のがんばる青年を紹介するショートプロモーションビデオ制作配信 ④サタクロステーマとする地域ボランティア活動の普及

⑤やまがた自然体験キャンプ2012

(a)期 日 8月9日(木)～12日(日)3泊4日

(b)場 所 海浜自然の家(金峰少年自然の家分館)

(c)参加者 115名(福島県児童65名、保護者7名、学生ボランティア23名、企画運営委員等20名)

(d)内 容【1日目】アイスブレイキング、野外炊飯

【2日目】フィールドアスレチック、ツリーイング、丸池・牛渡川散策、カヌー、星空観察



【3日目】鳥海山軽登山、野外炊飯、花火、テント泊（体育館にて）

【4日目】ペーパーウェイト作り

## (2) 若者自立支援事業

生活体験や自然体験をとおして、ひきこもり青年に、同じ世代の若者との交流機会を提供するとともに、居場所に通いながら社会参加が進んだ青年等が企画・運営に関わる実行委員会を編成し、1泊2日の「プロジェクトYY交流会」を2回実施した。

### ○第1回交流会

- ・期 日：平成24年8月17日(金)～18日(土)
- ・場 所：金峰少年自然の家分館海浜自然の家
- ・内 容：野外炊飯、サンセットウォーク、ティーパーティー 等
- ・参加者：団体指導者等含む35名の参加

### ○第2回交流会

- ・期 日：平成24年10月24日(水)～25日(木)
- ・場 所：野外炊飯、ティーパーティー、奉仕活動 等
- ・内 容：ウォークラリー、スポーツや創作活動、ティーパーティー 等
- ・参加者：団体指導者等含む38名の参加

- (3) 若者自立支援に係る相談員・カウンセラー派遣事業(ふるさと雇用再生特別基金事業)  
不登校・ひきこもりを支援するNPO法人が新たに相談員(カウンセラーを含む)1名を雇用し、居場所における若者同士の活動のコーディネートや家庭訪問による相談・カウンセリング等を実施。県内4法人に委託。

## Ⅲ かかわりの機会を充実するための環境をつくる

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育主事養成事業

東北大学社会教育主事講習(県内研修：6月18日～19日、磐梯青少年交流の家研修：7月2日～7月7日、東北大学研修：7月23日～8月10日)を19名(内県費派遣14名)が受講した。

#### (2) 社会教育研修事業

市町村教育委員会等の社会教育関係職員等を対象として、指導力の向上を図るため領域的・体系的な研修を実施した。

##### ①社会教育関係職員講座

○初任者講座1	6月5日～6月7日	遊学館	81名参加
初任者講座2	9月10日～9月11日	庄内総合支庁	34名参加

- 中堅講座 9月19日 遊学館 43名参加
- ②図書館講座 7月8日 遊学館 31名参加 (内学校関係者7名)
- ③PTA指導者研修会

各単位PTAのリーダー的な立場の会員を対象に、PTA活動の活性化を図るための事例研究や、スキルアップを図るためのワークショップを実施した。

○7月3日(土) 遊学館 136名参加

### (3) 視聴覚教材普及事業

#### ①自作視聴覚教材コンクール

視聴覚教材の自作化を奨励し、視聴覚教育活動の振興を図るため、山形県視聴覚ライブラリー協議会及び公益財団法人山形県生涯学習文化財団と共催で自作視聴覚教材コンクール及び視聴覚教材制作技術講習会を実施。学校教育部門、児童生徒作品部門、社会教育部門の3部門で審査を行う。

自作視聴覚教材コンクールにおいて、地区の審査を経て中央審査会に出品されたのは学校教育部門10本(DVDビデオ2本、紙しばい6本、パソコン作品2本)、児童生徒作品部門7本(DVDビデオ4本、パソコン作品2本、紙しばい1本)、社会教育部門13本(DVDビデオ2本、TP1本、紙しばい10本)、合わせて30本。

・県自作視聴覚コンクール中央審査会(発表会)平成25年1月19日 遊学館

#### ②視聴覚教材制作技術講習会

ビデオ部門、紙芝居部門に分かれて講習を行い、作品にこめた思いを効果的に伝えるための構成や撮影技術・カット割り・ナレーション・語りの手法等について技術の向上を図った。

○紙芝居部門：県生涯学習センター(山形市) 参加者22名

①7/26(木) ②8/9(木) ③8/23(木) ④9/6(木) ⑤10/18(木)

○ビデオ部門：県生涯学習センター(山形市) 参加者8名

①7/27(金)

### (4) 社会教育関係団体の支援

#### ①社会教育関係団体指導・支援

社会教育関係団体の健全な運営と活動の活性化を図るため、次の団体が実施する事業について助成した。

○山形県婦人連盟(婦人団体事業費補助金)

○山形県PTA連合会(PTA連合会事業費補助金)

○山形県高等学校PTA連合会(PTA連合会事業費補助金)

○山形県特別支援学校PTA連合会(PTA連合会事業費補助金)

- ボーイスカウト山形県連盟（ボーイスカウト事業費補助金）
- 山形県社会教育連絡協議会（山形県社会教育連絡協議会事業費補助金）

## ②優良PTA表彰事業

### ア 優良PTA県教育委員会表彰選考委員会（5月25日）

県教育委員会表彰団体として、小学校6校、中学校2校、高等学校2校を選考した。

### イ 優良PTA文部科学大臣表彰推薦

県教育委員会表彰団体のうち、小学校1校、中学校1校、高等学校1校を推薦した。

## ③PTA研修資料作成

PTA活動の活性化を図るための資料とするために、県内の優良PTA団体の実践を紹介した「これからのPTANo.42」を作成し、各単位PTA、市町村教育委員会等に配布する。

## 2 社会教育施設の整備・充実

### (1) 県立図書館の整備・充実

県立公立図書館との連携強化、調査相談（レファレンス）の充実等に努めるほか、絵本原画展や子どもを対象とした手づくり絵本コンクールを行い、県民の読書活動の推進と利用拡大に努めた。

### (2) 青少年教育施設の整備・充実

地デジ化・野外施設の改修工事等を行い、利用者が安全で快適に利用できるように施設の整備・充実に努めた。

### (3) 生涯学習施設の整備・充実

生涯学習振興の中核施設である山形県生涯学習センターの効果的かつ効率的な管理運営と、機能維持及び安全確保のため、設備等の更新及び修繕を行なった。

### (4) 山形県生涯学習センター事業

#### ①県生涯学習センターの管理運営

本県における生涯学習振興の中核施設である山形県生涯学習センターについて、指定管理者（公益財団法人山形県生涯学習文化財団）による施設の適切かつ効率的な維持管理運営により、利用者へのサービス向上を図った。

#### ②県生涯学習センターの施設整備

生涯学習センターの機能維持と安全確保のため、設備の修繕を行った。

#### ③総合的な学習情報の提供

県民の主体的な学習活動を支援するため、様々な方法により広域的かつ総合的な学習

情報を提供する。

- ア 学習情報収集・提供事業（アクセス件数：32,536件、学習相談：48件（平成24年12月末現在）

遊学館&文翔館ホームページを運営し、生涯学習に関する情報を提供した。また、県民の学習活動を支援するため学習相談等を実施した。

- イ ICT学習素材収集整備事業

「山形学」関連講座や県内無形文化財等を中心とした学習素材となりうる映像を収録し、遊学館&文翔館ホームページで公開する。

- ウ 学習情報紙発行等事業（5月・10月 各18,000部発行）

県、市町村、高等教育機関、民間団体等が実施する講座等の情報をまとめたやまがたマナビイカレッジ情報紙を発行した。

#### ④主体的な生涯学習活動への支援・連携

地域における主体的な学習活動を推進するため、関係機関と連携して講座開設や人材育成等を実施する。

- ア 子どもを育む生涯学習活動推進事業（5月～12月）

子どもの読書活動推進のための読み聞かせ実践者への研修会（2回）並びに絵本作家講演会（1回）や子どもの情操教育のため、人形劇等子どもたちが夢のある時間を過ごせるイベント：子ども遊学館（2回）等を開催し、生涯学習の見地から子どもの健全育成を図った。

- イ 生涯学習コーディネーター育成事業（6月・9月）

市町村の社会教育・生涯学習関係職員者等を対象として、初任者向けの社会教育関係職員パワーアップセミナーや中堅職員向けのスキルアップセミナーを開催し、関係者の資質向上と地域における生涯学習の振興を図った。

- ウ 「ふるさと塾」推進事業

「ふるさと塾」に関する映像等を記録し、インターネットを通じて公開していくことにより、ふるさと塾活動の支援基盤の構築を図った。

- エ 「山形学」地域連携講座支援事業（助成：12団体）

山形学を推進するとともに、県民の学習機会を広げ、地域に根ざした生涯学習を振興するため、市町村や高等教育機関等が開催する地域学に関する体系的な講座を支援した。

- オ 生涯学習活動支援事業（助成：28団体）

県民の映像学習教材製作や高齢者の観光ガイド、高校及び大学等の学習活動並びに市町村における生涯学習活動など、主体的な生涯学習に取り組む活動を支援した。

#### ⑤県民主体の学習機会の提供

県民の幅広い学習ニーズに応えるため、山形学講座等の学習機会を提供する。

- ア 「山形学」推進事業（6月～9月、11月）

山形の特徴や特性を多面的に捉え、山形に生きることの意義、自らのアイデンティティや地域づくりを考えるため、山形学フォーラム、山形学講座(6回)を開催した。

また、県内外で地域学を実践している民間団体、高等教育機関、行政等が集い地域等に関する情報を交換するための地域学交流集会を開催した。

イ 「仙人講座」開催事業(6月～12月)

高齢者の社会参画についての意識の高揚を図るため、仙人講座(7回)を開講した。

ウ 遊学21世紀講演会開催事業(12月、2月)

変貌する現代社会に内在する課題を掘り下げ、最新の情報と分析視点を県民に提供し、将来展望や今後の指標などを探っていくための講演会を開催した。

【諸会議】

(1) 社会教育施設連絡会議

- ① 県社会教育施設長会議(年間3回開催) 4月5日～6日、10月17日、2月13日
- ② 青少年教育施設研修担当者会議(年間3回開催) 4月18日、10月23日、2月20日

(2) 教育事務所等連絡会議

- ① 教育事務所社会教育課長会議(年間3回開催) 4月5日～6日、9月14日、2月1日
- ② 教育事務所社会教育主事会議(年間4回開催) 4月18日、5月2日、9月21日、2月15日

※県社会教育委員の会議(委員数15名)

○第166回定例委員会 5月30日 県庁講堂

○第167回定例委員会 1月16日 県生涯学習センター特別会議室

社会教育行政の基本方針と施策の概要及びその総括について話し合った。

5月の定例の会議では、平成24年度の県の生涯学習・社会教育関係事業についての説明と質疑応答を行った。

1月の定例会議では、今年度事業についての成果と課題および平成25年度の生涯学習・社会教育関係事業の概要について説明し、質疑応答を行う予定。

また、現在策定中の第4次山形県生涯学習振興計画(案)について説明し、質疑応答を行う予定。

**文部科学大臣表彰**(平成24年度)

○優良公民館

申請館なし

○優良PTA表彰

東根市立東根中部小学校PTA（東根市）  
山形市立第三中学校PTA（山形市）  
山形県立山形工業高等学校PTA（山形市）

○社会教育功労者表彰

齋藤 浩一（天童市） 公民館活動  
梁瀬 茂登（酒田市） 公民館活動

○視聴覚教育功労者表彰

本田 富（川西町）

○子ども読書活動優秀実践図書館・団体

南陽市立図書館（南陽市）  
八幡よみきかせ隊（酒田市）

**生涯学習・社会教育振興計画策定**（平成24年度）

○第1回振興計画策定委員会 7月6日（金）10:00～11:00（関係各課長等26名＋事務局）

- ・これまでの経過と第4次生涯学習振興計画策定の概要について
- ・第3次計画と第4次計画の特徴について

○第1回振興計画策定専門部会 7月10日（火）10:00～12:00（関係各課担当者等25名＋事務局）

- ・これまでの経過と第4次生涯学習振興計画策定の概要について
- ・第3次計画と第4次計画の特徴について

○第4次山形県生涯学習振興計画策定に係る学習会 7月13日（金）13:30～16:30

（東北大学石井山准教授、山形大学安藤准教授、前遊佐町教育長小田島健男氏、家庭教育アドバイザー野口比呂美氏、県社会教育委員連絡協議会長舛田忠雄氏、各教育事務所主任社会教育主事、生涯学習振興課6名、合計15名）

- ・これまでの経過と第4次生涯学習振興計画策定の概要について
- ・石井山先生を中心にフリートーク

○第2回振興計画策定専門部会 8月28日（火）10:00～12:00（関係各課担当者等25名＋事務局）

- ・第3次山形県生涯学習振興計画の総括について
- ・第4次山形県生涯学習振興計画の素案づくりについて

○第3回振興計画策定専門部会 10月18日(木) 10:00~12:00(関係各課担当者等25名+事務局)

- ・第4次山形県生涯学習振興計画の素案について

○第2回振興計画策定委員会 11月22日(木) 10:00~12:00(関係各課長等26名+事務局)

- ・第4次山形県生涯学習振興計画(1次案)について

○第3回振興計画策定委員会 1月10日(木) 10:00~12:00(関係各課長等26名+事務局)

- ・第4次山形県生涯学習振興計画(2次案)について

○山形県社会教育委員の会議 1月16日(木) 10:00~12:00(県社会教育委員15名+事務局)

- ・第4次山形県生涯学習振興計画(2次案)について

○パブリックコメントの実施(2月中旬~3月中旬) 【予定】

- ・第4次山形県生涯学習振興計画(案)について

○第4回振興計画策定委員会 【予定】

- ・第4次山形県生涯学習振興計画(案)について

○第4次山形県生涯学習振興計画完成

# 1 平成24年度社会教育の推進・生涯学習の振興

山形県の教育目標（第5次山形県教育振興計画）

## 知徳体が調和し、「いのち」輝く人間の育成

テーマ 山形の教育 「いのち」そして「まなび」と「かかわり」

- 基本方針
- 1 「いのち」を大切にし、豊かな心と健やかな体を育てる
  - 2 「まなび」を通して、自立をめざす
  - 3 広い「かかわり」の中で、社会をつくる
  - 4 学校と地域を元気にする

重点施策テーマ

変化する時代を主体的に生きぬく力をはぐくむ「いのちの教育」

平成24年度の社会教育の推進・生涯学習の振興にあたっては、第5次山形県教育振興計画の後期計画に基づき施策を展開します。

重点施策として、「いのち」と「かかわり」を、社会教育・生涯学習の中心ととらえ、これまで同様に「いのちの教育」の基礎づくり、社会力の育成、社会教育・生涯学習の環境づくりを継続し、これら3つの柱を中核とし、変化する時代を主体的に生きぬく力をはぐくむ「いのちの教育」をめざしていきます。

また、「第3次山形県生涯学習振興計画」が策定されてから9年が経過し、この間県民を取巻く社会環境や生涯学習振興に係る社会状況が変化してきている。このような状況をふまえ、「第4次山形県生涯学習振興計画」を策定し、本県の社会教育・生涯学習の実態や課題、今後の方向性等を示していきます。

## 重点施策

### 1 いのちの教育の基礎となる家庭教育と幼児期の教育を支援する

すべての教育の原点である家庭教育については、家庭の教育力向上のために、すべての親に対する学習機会や情報の提供等により、身近な地域における家庭教育の支援に努めます。

また、家庭、幼稚園・保育所等、地域の大人が連携して幼児期の子どもを共に育てる「幼児共育」を推進するために、これまでに開発した活動プログラムを生かした実践的な活動により、幼児期の教育の充実をめざします。

- (1) 家庭教育支援の充実
- (2) 幼児共育の推進

### 2 かかわりの中で子ども・大人の社会力を高める

家庭、学校、地域が連携した、子どもたちが地域の人々とかかわる機会や体験活動、読書活動等の場を充実させ、子どもたちの社会力を育成するとともに、大人自身の社会力の向上や地域の教育力の向上をめざしていきます。

また、青年が集い交流し、地域活動を実践する場を設定することにより、他者とかかわる力や青年リーダーの育成に努めます。

- (1) 青少年の体験活動、読書活動の充実と地域とかかわりを創出する仕組みづくりの推進
- (2) 青年の交流、地域参画の推進

### 3 かかわりの機会を充実するための環境をつくる

社会教育を充実させるため、社会教育行政にかかわる職員の指導力の向上、推進体制の充実、社会教育関係団体の支援を図るとともに、教育事務所と連携して市町村の社会教育行政をよりきめ細やかに支援していきます。

また、社会教育施設が、個人の要望や社会の要請にこたえる魅力ある生涯学習の拠点施設として機能するよう整備・充実に努めます。

- (1) 社会教育推進体制の充実
  - ※ 第4次山形県生涯学習振興計画の策定（平成23～24年度）
- (2) 少年自然の家での魅力的なプログラムの開発、社会教育施設の整備・生涯学習環境づくりの推進



# 平成24年度 社会教育・生涯学習 施策体系



